

目次	1	SciREX サマーキャンプ@愛知 [坂本明通子]
	2	CAMPUS Asia Summer Trip to Hokuriku: Young Ambassadors 一日中韓ソフト外交—[龔 臣] / 留学生旅行 in 鎌倉・箱根 [岡本はな]
	3	学生インタビュー [片桐紀子さん]
	4	「グローバルなエネルギー需給の展望と日本及びASEANの課題」開催報告 [芳川恒志] / トピックス

## SciREX サマーキャンプ@愛知

坂本明通子 公共管理コース1年

8月21日から23日にかけて「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業 (SciREX)」サマーキャンプに参加しました。今回は東京大学が幹事校で「科学技術イノベーションと産業化：政策・規制・安全保障の視点から」と題し、科学技術イノベーションのある地域で産業として実現するための政策に焦点を当て、愛知県で開催されました。6大学の学生約40名、教職員を併せると約90名が集結し、2泊3日、密度の濃い時間を過ごすことができました。

初日は名古屋駅に集合した後、二手に分かれて工場見学に向かいました。三菱重工かトヨタ自動車かの事前選択で、私はトヨタ自動車を訪問しました。工場では、「かんぱん方式」による在庫管理や「アンドン」による異常発生時の対応について、稼働中のラインを見ながら学びました。その後、とよたエコフルタウンにて、低炭素交通システムの実現に向けての実証実験施設を見学し、超小型電気自動車コムスに試乗しました。コムスや電動アシスト自転車都市内でシェアリングする取り組みですが、省スペース・省エネルギーといった特徴だけでなく、複数のステーションを設けることによる乗り捨てやスマホアプリを使用した予約等、気軽に利用できるような仕組みなどが取り入れられていました。

2日目の午前中は基調講演3つと講義4つが開催されました。各講演・講義は20-30分と短いものでしたが、科学技術イノベーションについて、政策の内容、実際の科学技術の産業化の取り組み状況、科学技術と企業経営の関係等、国・市・研究者といった様々な視点からの講演・講義を受けることによって、理解が深まりました。

午後は学生のグループワークでした。事前に登録した興味分野に



関連する課題が与えられ、政策提案を3日目の午前中に発表するものです。私たちの班はICT活用による健康・医療産業の育成という課題に取り組むこととなりました。欠席者もいて他の班より少ない4名でしたが、専門分野は経営学から化学まで、年齢も経験も多種多様でした。医療分野を専門とする人が誰もいなかったため手探りで検討でしたが、各班に専属のファシリテーターが配置されていたため、班員おのおのは、自分の意見を固めることに集中できました。ただし、ファシリテーターの配置は夕方中間発表までという時間的な制約があったため、いざ班員だけに戻った際に、議論の整理を自分達で行う必要に気づき、改めて役割分担からの出発となりました。

中間発表までに政策の要とする科学技術については固めたものの、具体的な制度設計や根拠探し等を行う必要があり、翌日の発表に間に合わせるために長い夜を過ごすこととなりました。会場には作業部屋が確保されており、ほとんどの班が深夜または明け方まで、翌日の発表に向けて打合せやパワーポイント資料作成を進めていました。

最終的に、なんとか発表には間に合わせたものの、認識していた政策の問題点の多くに対応できず、課題の残る発表となりました。しかしながら、多様な背景を持つ参加者が集まることで、班内で幅広い知識を共有し、この場でなければできなかったであろう政策提案を形にできたのではないかと思います。

また、夜を徹しての議論がとても楽しくやりがいがあっただけでなく、限られた時間の中での作業の配分や役割分担、議論の活性化方法等のマネジメントの重要性も実感し、得られるものが多いサマーキャンプとなりました。



# CAMPUS Asia Summer Trip to Hokuriku

## Young Ambassadors —日中韓ソフト外交—

龔 臣 キャンパスアジアコース1年

例年と違い、今年のサマースクールは3日間と短かった。今回の旅のスタートは福井県永平寺！長年日本に住んでいた私だが、北陸地方へ行くのは初めてで、ワクワクと共に旅は始まった。そこから東尋坊へ、そして忍者寺と呼ばれる妙立寺を巡り、短い日程でも日本の古き良き文化に触れたことは、大変興味深い経験となった。

我々の旅の目的はもちろん観光だけではない。一学期を通して準備してきたディベートでは、歴史教科書を通して見えてくる日中韓3ヶ国の歴史認識の違いについて熱い議論をし、デーティング・ショウ(注 各国の文化等を反映させた典型的な男女像を数パターン用意してマッチメイキングする)では、日中韓のトレンドを反映させたユニークな内容となり、各国の社会の現状を知るきっかけとなった。どちらも心地よい充実感と共に締めくくることができた。

それ以外では、旅館での豪華なディナー経由のカラオケ大会は大いに盛り上がった。地元名産のノドグロが自慢の料理屋さんでの夕食では、国籍を超えた友情が日中韓の間で確かに生まれた。

CAMPUS Asia プログラムはまだ始まったばかりだが、その意味合いは非常に大き



い。このような活動が、今後の東アジアの発展に寄与することを願うと共に、私自身が果たすべき責任を感じるとる旅となった。おそらく私と同じような考えを持つようになった仲間が多いのではないかと。最後に、このような貴重なチャンスを与えてくださった宮本弘暁先生をはじめとする大学院の先生方、引率して下さった那知信恵さん、そして、旅のアレンジをして下さった佐藤愛実さんに感謝の意を表したい。

## 留学生旅行 in 鎌倉・箱根

岡本はな 国際公共政策コース2年

去る9月12日と13日、新入学の留学生とともに、鎌倉・箱根へ旅行に行ってきました。

1日目は、鎌倉を中心に、鶴岡八幡宮と周辺の街並みを観光し、熱海の金城館で温泉と日本料理を楽しみました。留学生は皆、鎌倉独自の街並みや食文化を存分に楽しんでいる様子でした。カラオケでは世界各国の美声を聴くことができ、その熱気のまま、深夜まで宴が続きました。2日目は箱根に移動して芦ノ湖クルーズを楽しみ、寄木細工作り、箱根の関所を見学しました。あいにくの雨でしたが、東南アジアの学生を中心に、雨をもろともせず甲板でクルーズを楽しみました。また、関所では、江戸と箱根の統治について、当時の業務を演劇で鑑賞しました。この旅行の目的は、新入学の留学生同士の交流を深め、また日本文化にも親んでもらうことですが、日本人である私にとっても大いに発見があり、たくさんの留学生との仲を深めることができました。

現在、日本を含めた地球規模の潮流の中で公共政策を構想するには、各国の事情に対する深い洞察や視座が必要なのは明らかであり、それに必要な「生」の情報は、利害関係のない、純粋な志の下に集まってきた学生同士の信頼関係や絆からもたされることが多いのだろうと考えます。そして、その関係を構築するための環境や今回の



右が筆者



旅行のようなイベントが、まさにGraSPPにあるのだと声を大にして伝えたいです。金城館の宴会で隣の席になった留学生の話から、東南アジアにおける証券市場の驚くべき事実を知り、深夜の宴会では各国の都市政策の問題点を議論しました。また昨年、自習室の隣の席の留学生から、フランスにおける新たなエネルギーシステムの話の聞き、その絆によって、パリで行われた環境問題に関する学生会議で、多くの学生と友達になりました。

GraSPPをこのような素晴らしい環境にするために尽力くださった先生方、事務局の方々、そして諸先輩方に感謝します。将来国益を考える立場に就く後輩の日本人学生の皆さんにも是非、積極的に留学生と交流して頂きたいと思います。

最後に、今回の旅行について、魚住多佳子さん、大野碧さんをはじめとする国際企画チームの皆さん、旅行中万全のサポートを下さった添乗員の鳥路さん、本橋さんに、この場を借りて感謝申し上げます。本当にどうも有難うございました！

## Student Interview

## 学生インタビュー ▶ 第21回

— ここ数年は介護に明け暮れていたそうですね。

多いときで、父、母、そして母方のおばと3人の世話を一手に引き受けていました。まず、独り暮らししていたおばが認知症になりました。「ものが失くなった、泥棒に入られたみたい」などと電話をかけてくるようになり、おかしいなと思ったら認知症という診断が下りました。次に母がふさぎこむようになって。私は(横浜市議会)議員活動で忙しく、父も「昭和の男」だったので、二人して母の話を聞けなかったのが、いけなかったんでしょう。おまけに、母は骨粗鬆症を患っているのに、おばの家の片付けでさらにダメージが加わって寝込んでしまいました。外出もままならず、リハビリにも通えなくて。私も、土日はできるだけ家事をやっていたのですが、土日は地元への挨拶やお祭りへの顔出しといった用事が入り、仕事と家族の介護の両立がきつくなってきました。当時はまだ、介護をしているから仕事をセーブするという環境が整っていませんでした。子育てに理解を示してくださる方は増えていたのですが、介護への理解はなかなか進まず、2期8年務めたのちに、公示直前、候補者一覧が新聞に載るか載らないかというぎりぎりのタイミングで、3期目の立候補を断念しました。

出馬を断念して家族を納得いくまで面倒見られたのは、ありがたいことでした。私が立候補を断念した直後に、おばが亡くなりました。すると今度は私が卵巣に腫瘍が見つかりました。私はそのあとに胆嚢も手術しますが、どちらも完治して今は元気です。私の胆嚢の手術と同じ時期に、父が胆管ガンになり、闘病1年半の末に亡くなりました。GraSPPに通ってはいましたが、比較的余裕をもって父を看病できたので悔いはありません。

GraSPPには2011年4月に入学しました。1年半休学したこともあり、普通より長めの学生生活です。介護漬けで精神的に疲弊していたときに、GraSPPという居場所はかけがえのない存在でした。入学したのは国際公共政策コースですが、議員として陳情で聞いてはいたものの実際に体験していないので知らないことがたくさんあり、地方自治に学びの軸足を移したかったので、公共管理コースに移ることにしました。

片桐 紀子さん  
公共管理コース2年



2007年選挙ポスター用 超若づくり(本人談)



メイクコンテスト優勝 砂かけ婆

— 横浜市議会議員になったのは、何がきっかけだったのですか。

ハーヴァード大学で第二言語習得と国際教育を学んで修士号を取得しました。そこで、発展途上国の教育水準が上がると開発が進むという例などを学びました。市民活動をして、政治の中核までなかなか声が届かないのが実情です。声をあげる人間が政治家か否かで、効果がまったく違います。日本だと、政治や宗教の話はご法度という場合も少なくありませんが、アメリカは政治や宗教の議論はオープンですよ。そういう環境に身を置こうちに政治に興味をもつようになりました。新卒で入った会社から日本語教師を経て今に至るまで、一貫しているのは「ひとの喜ぶ顔が見たい」「恩返しをしたい」でした。そこから自分が育った地元に戻りたい、地元の役に立ちたいという気持ちが湧いてきて、市議会議員という選択肢にたどり着きました。

家のことが落ち着かなかったために、再出馬を決めてから実質的な準備期間が1週間程度しかなく、ちらしのポスティングを依頼したのに配られなかった、ポスターが小雨で溶けたなど、仰天ハプニングが続出(笑)。落選という結果になりましたが、敗れたときのふるまい方、落選したときの気持ちなど、今まで知らなかったことが経験できました。今はすっかりした気持ちで、お世話になった方々への恩返しも見据え、次のステップへ進む準備段階です。

(インタビュー・文責 編集担当)

# 「グローバルなエネルギー需給の展望と日本及びASEANの課題」 開催報告

芳川恒志 特任教授

9月16日、国際シンポジウム「グローバルなエネルギー需給の展望と日本及びASEANの課題」が開催されました。

本シンポジウムはいくつかの意味で時宜を得たものでした。まず、ファティ・ビロール博士は、国際エネルギー機関(IEA)事務局長就任後初めての訪日で、その問題意識やIEAの活動方針について抱負を聞く貴重な機会となりました。第二に、アジアを中心に国際的なエネルギー需給に構造的な変化が起こっています。第三に、年末のCOP21を前に地球環境問題への関心が高まっている時期に開催されたことです。さらに、日本で「エネルギー基本計画」や「長期エネルギー需給見通し」が策定され、将来に向けてのエネルギー政策の基礎や方向性が固まったところです。

今回はビロール事務局長の他、上田隆之経済産業審議官(前資源エネルギー庁長官)、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)西村事務総長及び田中伸男笹川平和財団理事長(元IEA事務局長)をお招きしました。以下、主要なトピックごとに論点をまとめました。

## 1 世界のエネルギー需給構造

2040年までの需要を展望すると、世界を引っ張るのはインドやASEANが中心となります。中国は経済成長の減速等に伴いエネルギー需要増も鈍化する見込みだからです。一方で、供給側を見ると、これまで北米の原油及び天然ガス生産は急速に拡大しました。しかし、現下の低価格により上流部門への投資が来年は大幅に落ち込み、将来の需要に対し十分な供給が確保されるか懸念されます。また、今後天然ガス、特にLNGの生産は拡大を続け第一の燃料となると思われます。さらに、米国等IEA加盟国における石油生産が拡大する一方で、本来原油輸出国であるOPEC加盟国の石油消費が増加するなど、伝統的な消費国と生産国との関係が変化しつつあることにも注意が必要です。

## 2 エネルギー安全保障

石油価格が下がると、エネルギー安全保障に対する関心も同様に低下する傾向があります。しかしながら、中東における地政学的な課題などは、直ちに解決されるような性質のものではなく構造的で

す。このため、エネルギー安全保障は引き続き重要な課題であることに留意する必要があります。

## 3 地球環境問題

今年はCOP21が年末にパリで開催されます。政治的には昨年11月米中首脳が地球温暖化ガス排出に関して歴史的合意に至りましたが、実際にもこれまでに発展途上国を含む多くの国がINDC(地球温暖化ガス削減に関して各国が自主的に決定する約束草案)を国連に提出しています。加えて、この分野で希望的な兆候も見られています。例えば、CO2排出増の勢いは安定化しつつありますし、世界的に省エネや再生可能エネルギーの導入が加速しています。このような地球環境問題に関する関心や動きは、エネルギーセクターに将来へのシグナルとして発せられ、その投資動向等に影響を与えます。

## 4 人材育成

ASEANにおいては加盟各国間で経済成長段階やエネルギーアクセスのレベルが大きく異なり、その意味で多様性がありますが、特にエネルギーアクセスのレベルが低い国を中心に依然人材育成が課題であるとの認識が示されました。



写真撮影 山下加代

## TOPICS トピックス

10月8日、情報学環・福武ホールで第82回公共政策セミナーを開催しました。講師にアジア開発銀行(ADB)の中尾武彦総裁をお迎えし、*Asian Economic Outlook and the Role of ADB* というタイトルでご講演戴きました。100名を超える聴衆が耳を傾けるなか、アジア経済の将来展望、ADBの重点業務と改革への取組みなど、幅広いトピックについてお話しくださいました。ユーモアあふれる語り口に客席から何度も笑いが起こっていました。終了後もGraSPPの外国人学生と記念撮影に応じてくださるなど、総裁の気さくなお人柄がにじみ出た講演となりました。



## 編集 後記

今号の寄稿者2人が、奇しくも国際関係におけるソフトパワーが大事だと力説しています。2人が参加した企画では、これまた奇しくもカラオケ外交がそれぞれいふんと効果的だったようです。日本が誇る「文化」、karaokeがこんなところで威力を発揮するとは、嬉しいことです。デーティング・ショウにも参加したいな、とも年甲斐もなく思いました。

(編集担当)

NEWSLETTER [編集・発行] …… 東京大学公共政策大学院  
第42号  
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] …… 2015年11月4日

[デザイン] …… 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877  
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>